

3級【パターン】傾向と対策

色が付いていない箇所は常に気を付けていただきたい箇所となります。青く印した箇所は今回のデザインで関係ある箇所です。

ファーストパターンとは作図パターンを別紙にパーツごとにトレースして寸法の確認や縫い目のつながりが修正され、名称、記号、合い印等、必要な事柄を書き入れたものをいい、ファーストパターンが最終提出パターンになる。ただし、フラットパターンメイキングで作業を行った場合は展開した原型や作図、展開パターンの添付も必要である。

以下の項目は、求めているレベルに達していない又は未完成のため不合格の対象となるので注意する。

- ① ファーストパターンの欠落(身頃、衿、袖等)。
- ② 使用した原型に不正がある。(展開線が記入された原型やあらかじめゆとり分量が展開されている原型、使用不可の袖原型等)
- ③ デザイン・構造線が違う。
- ④ 試験問題に記載された着丈や袖丈と著しく違う場合。

<身頃>	
原型操作	① 原型を準備する際には注意すること。(ガイドブック・受験案内参照) 前後切り離して持参する。
構成	① 今回の身頃はプリンセスラインの切替えがあるデザインであった。バストダーツと後ろ肩ダーツを袖ぐりや衿ぐりに分散・展開した後、プリンセスラインで処理することになる。残ったダーツ分量を処理しながら、縫い目線として滑らかなカーブで切替え線を表現しなければならない。ダーツ展開の際、袖ぐりや衿ぐりが大きすぎて浮きすぎとして減点されたもの、またその逆のものもあるので事前によく確認の上、受験していただきたい。
	② ウエストのシェイプもプリンセスラインと脇線で表現することになる。それぞれの切替えでのしぼる分量のバランスはもとより、ヒップの出来上がり寸法を設定し、上がり寸法になるように縫い目線で調整しながら、縫える滑らかな線として表現しなければならない。
修正	① 前後身頃のダーツを展開した後、袖ぐり線を原型よりもゆるいカーブ線で引き直した場合、胸幅が広がる傾向がある。また、後ろ袖ぐりは、原型と同じ幅あるいは削り加減で引き直す傾向があるため、胸幅に比べて背幅が狭くなっているものが見られた。袖ぐり線の修正がうまくできないため、前後の肩線のつながりが角になり、袖のシルエットを崩してしまったものもあった。

<衿>	
バランス・形状	① 今回の衿はフラットカラーである。幅とねかしのバランスや形状が重要になる。作図は身頃の衿ぐりから割り出す方法であり、製図方法を覚えきれていなかったり、間違っていたりして落ち着きの悪いものが多く、減点されている。返り線がなかったり、パターンにしたときの方向が間違っているものも多くあった。事前の練習時にしっかり確認して試験に臨んでいただきたい。

< 袖 >	
形状	① 袖の製図には様々な方法があり、身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決めるべきである。また袖山の高さは袖幅にも影響するのでその事も考慮し、設定すること。また、袖山のイセ分量が多すぎたり寸法が不足していたり、袖山の形状が不自然だったりするものが目立った。
袖山	① 袖山のカーブの形状も付けた時の袖の振りや形状に大きく影響する。身頃のアームホールにあった袖山形状を身につけていただきたい。

< 提出用ファーストパターン >	
縫い代 合い印 記号	① ファーストパターンは各パーツ別々にトレースをして、必要な記号などを記入することで確実に点数を取れるようになったと思われる。
厳守 事項	① ファーストパターンは規定寸法の範囲内であり、課題のデザイン画のバランスを読み、形よく構成されていることや全体としてのバランスと部分的な形状が模範解答に近く、縫い目線の形状やつながりが縫製時を設定して考えられていることも大切である。また、鉛筆の線が一定した太さと濃さで描かれていることも重要である。線が蛇行しているものなど3級の完成度に達していないものが多かった。
	② ファーストパターンを作成する際には脇線、肩線などを突き合せた状態で袖ぐり線、衿ぐり線、裾線、プリンセスラインのつながりの修正や確認をし、完成させることが必要である。
	③ 課題に設定された着丈や袖丈などの規定寸法や条件に関する説明を再確認し、要求されている記入事項として名称・地の目・記号・合い印・ボタンなどが記入されていること。身頃、衿など、必要なパターンが全て揃っていること。特に、パーツパターンの描き忘れや、切り離れたパターンが紛失しないように、最終的な確認を確実に行っていただきたい。